

県政をもっと良（よ）く 知（し）ろう！



ふるさと
ニッコリ通信

県議会トピックス 防災特集号

9月議会 良知あつゆき一般質問より

基幹的広域防災拠点の構想について

一方で、8月末に出された国の南海トラフ巨大地震の被害想定において、甚大な被害が予想される本県にとって、空の玄関となる富士山静岡空港は、「防災拠点」としても期待するところ大であります。

こうしたなか、今月2日、磐田市、富士山静岡空港、浜岡原子力発電所をメイン会場として、東海・東南海・南海地震が同時に起る南海トラフ巨大地震が、予知無く発生したことを見定した静岡県総合防災訓練が行われました。

中でも、富士山静岡空港においては、「基幹的広域防災拠点」として機能するかどうかの検証に重点が置かれたと伺っており、実際の予定地に比べれば、相当規模が小さいものの、空港西側の敷地に自衛隊や米軍など県外からの応援部隊が駐留するアントが設営され、さらに浜岡原発事故の同時発生も想定し、福島第一原発における「Jビレッジ」に相当する、「原子力災害支援センター」も設置される訓練も行われたと聞いております。

県では、現在中部地方に置かれていない基幹的広域防災拠点の誘致を国に働きかけを行っているというこ

とですが、首尾よく富士山静岡空港の西側に隣接する20ヘクタールの土地が、国の基幹的広域防災拠点となつた場合、この拠点が県民の救出・救助・復旧・復興にどのように役割が果たされるのか、また、東海地方には現在ない規模と聞いておりますが、その規模についてどのように考へているのか伺います。

さらに、富士山静岡空港は、航空自衛隊静浜基地とも近く、どう役割分担をすることとしているのか、併せて伺います。

Q 基幹的広域防災拠点の構想について

富士山静岡空港は、開港4年目を迎え、今年の8月の搭乗率は、開港後初めて80%を超えるなど、順調に本來の役割を果たしつつあり、臨空都市構想の実現など、今後も本県発展の基盤的施設として期待してやみません。

良知議員にお答えいたします。はじめに、基幹的広域防災拠点の構想についてであります。

大規模災害が発生した際の応急復旧活動の核となる拠点として、国が整備する基幹的広域防災拠点は、首都圏には有明の丘と東扇島に、京阪神都市圏には、酒井泉北港にあります。東海地震等の発生が想定される中部圏には未だ整備されておりません。

自民改革会議 静岡県議会議員
良知 淳行

良知議員にお答えいたします。はじめに、基幹的広域防災拠点の構想についてであります。

A 県知事答弁内容

東日本大震災で改めて認識されたところであります。災害時における空港の重要性につきましては、昨年の富士山静岡空港は、国土のほぼ中央部にあり、東名、新東名の2本の高速道路や御前崎港などを結ぶ、陸・海・空の交通の結節点に位置し、新幹線新駅の可能性もあります。基幹的広域防災拠点を整備する絶好の場所でありますので、今回の総合防災訓練でその検証を行つたところであります。

大規模災害の発生直後は、この拠点を活用して自衛隊を始めとする救助部隊が被災地に迅速に展開することにより、被害の拡大防止が図られます。そして、復旧・復興期には、ここを経由して復旧のための要員や資機材などを戦略的に被災地に投入することにより、迅速かつ効率的な復旧・復興が行われるものと期待しております。

さらに、富士山静岡空港は福島の「Jビレッジ」と同様

、原子力発電所から約20kmの位置にあります。そのため、今回の総合防災訓練において、浜岡原子力発電所の事故の際に復旧作業の支援拠点を空港に置くことについても検証を行つたところ、極めて有力な候補地であることを確認したところであります。

基幹的広域防災拠点の規模につきましては、ヘリポートを含めて、首都圏の有明の丘が約13ha、東扇島が

約16ha、京阪神都市圏の酒井泉北港が約28haであります。

富士山静岡空港の隣接地は約20haと十分な規模が

あります。その上、大型の固定翼機が離着陸できる空港機能と合わせることにより、ほかの地にはない、大きな優位性を持つ基幹的広域防災拠点になるものと

考えております。

なお、航空自衛隊静浜基地との役割分担につきまし

ては、基地や周辺道路等の被災の程度にもよります

が、直線で10kmほどの近距離にあり、富士山静岡空港

と一緒に運用することで相互に補完することができます。

このため、効率的な活用が図られるよう、今後の訓練等を通じて、その役割分担について検証してまいります。

その後の県の動き

12月県議会定例会 知事提案説明要旨より

基幹的広域防災拠点

基幹的広域防災拠点につきましては、今月5日、国土交通省中部地方整備局が中心となって組織する中部圏戦略会議において、静岡県庁、富士山静岡空港など5か所が「中部圏地震防災基本戦略」に盛り込まれました。

今後、国の防災基本計画に、中部圏の基幹的広域防災拠点の整備が位置づけられる必要があります。

2日に下地防災担当大臣とお会いした際、本年度中に、富士山静岡空港を基幹的広域防災拠点とする方向性を決定したいとの意向が示されましたので、整備の実現に向けて大きく前進したものと確信しております。

第4次地震被害想定

第4次地震被害想定につきましては、来年6月の静岡県防災会議での公表を目指し、発生しうる最大クラスの地震・津波と、過去に繰り返し発生して大きな被害をもたらしている地震・津波の二つのレベルについて策定致します。

国が8月に公表した南海トラフにおける巨大地震の被害想定との整合を図りながら、県独自のデータを加え、市町単位で被害想定を策定することとし、地震動や津波高などの推計作業を鋭意進めています。市町が早期に地域防災計画の見直しに着手できるよう、被害を可能な限り減少させるための対策の方針と併せて、来年2月を目途に中間報告を行なってまいります。

オフサイトセンター

原子力災害時に、国、県、市町など関係機関の活動拠点となるオフサイトセンターにつきましては、福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、原子力発電所から5km以上30km未満に設置しなければならないことが、省令により規定されました。

現在、御前崎市にあるオフサイトセンターは、浜岡原子力発電所から2.3kmの距離に位置することから、早期に移転する必要が生じております。このため、浜岡原子力発電所から約20kmの距離にあり、基幹的広域防災拠点としての位置づけが予定される富士山静岡空港の西側県有地を、移転候補地に選定いたしました。調査・設計に要する経費につきまして、12月補正予算案に盛り込み、今議会にお諮りしております。

きずなのページ(視察・活動報告) 自ら動き、感じ、実行する力 命を守り抜く信頼の危機管理 足腰の強い焼津への挑戦

被災地を訪れて

昨年四月、宮城県の仙台市、気仙沼市から北上し、岩手県沿岸部を南下するルートで、太平洋に面する被災地のほぼ全様を視察しました。瓦礫が散乱し、街のあらゆる色彩が失われた灰色の土煙の中で、自衛隊の方々がご遺体の捜索を続けていました。尊い人命が失われた背景には、危機意識の希薄化や地域「ミニマティ」の崩壊、避難所でのマニュアル不足や情報伝達の不徹底等、あらゆる要因があり、これら一つひとつを丁寧に検証し、今後はこの街の教訓としなくてはなりません。今こそ私たちは試されているのです。

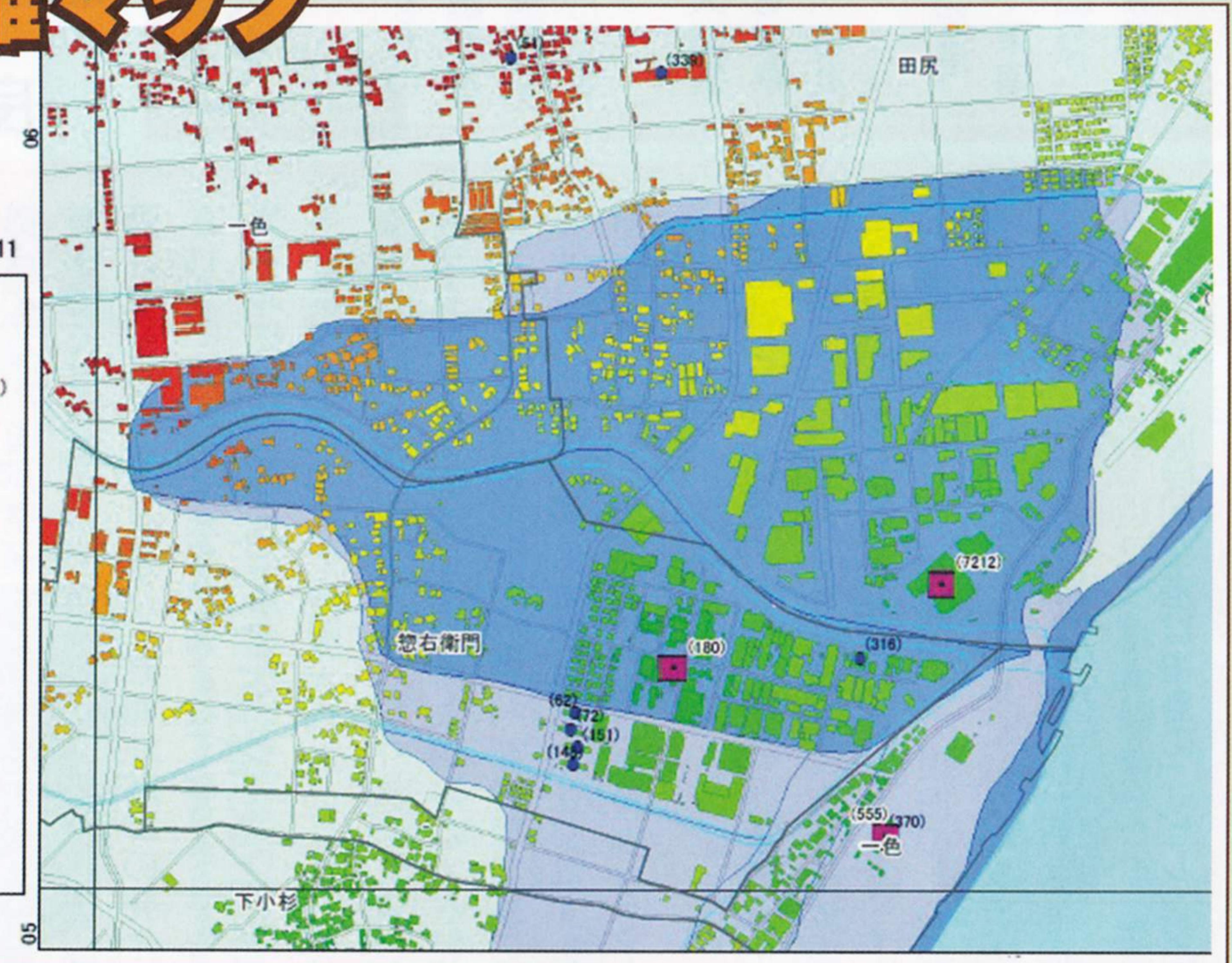
短期対策には津波避難所!

大規模災害の発生時には、直後の的確な初動対応が何よりも重要です。東海地震では、発生後約5分で津波の第一波が到達すると指摘されています。多額の費用を要する防潮堤は中長期的な整備になりますが、住民の方々が速やかに辿り着ける避難場所を過不足なく用意すること、その訓練を重ね避難慣れしておくことは短期でできる最も効果的な対策です。県と市が方針を一つにして、一人ひとりの命を守り抜くという政策姿勢を示さなくてはなりません。私も引き続き徹底して提案を重ねてまいります。

津波避難マップの作成

昨年九月議会での県当局からの答弁等に不安を覚え、独自に調査を開始し、民間企業と協力して「津波避難マップ」を作成しました。このマップには、①「静岡県第三次地震被害想定」の津波指定工エリア②安政大地震時の津波到達エリア③標高10m以下エリアの3つを一つの地図上に色分けして表しており、津波からの避難が必要な全ての住宅について、避難場所までの距離と避難可能な人数が把握できるようになっています。更に、4階建10m以上の建物全てを地図上に示すことで、町、丁目ごとに住民数と避難場所までの距離が500m以上離れ、現実的には数分での避難が困難と思われる住民の人数が挙げられています。これに4階建10m以上の民間建物を加えて見ると、避難困難者はかなり抑えることができます。つまり、すぐに取り組むべき事項として、こうした避難可能ビルの耐震診断を実施し、新たに避難場所としての指定を進め、かつ「ここは津波避難ビル」という標記を目立つように貼付することで、まち全体の減災力を高めることができます。是非、皆さんもご自分のまち、自宅から高い建物までの距離と避難に要するルート等をご確認ください。

津波避難マップ



最新の被害想定もチェック!

● この地図は、内閣府が平成24年8月29日に公表した「南海トラフ巨大地震による津波高・浸水深」です。「南海トラフ巨大地震モデル検討会」で示された最大クラスの地震、津波を想定したものですが、発生する確率は極めて低いとされています。

● 津波高、浸水深は目安となります。

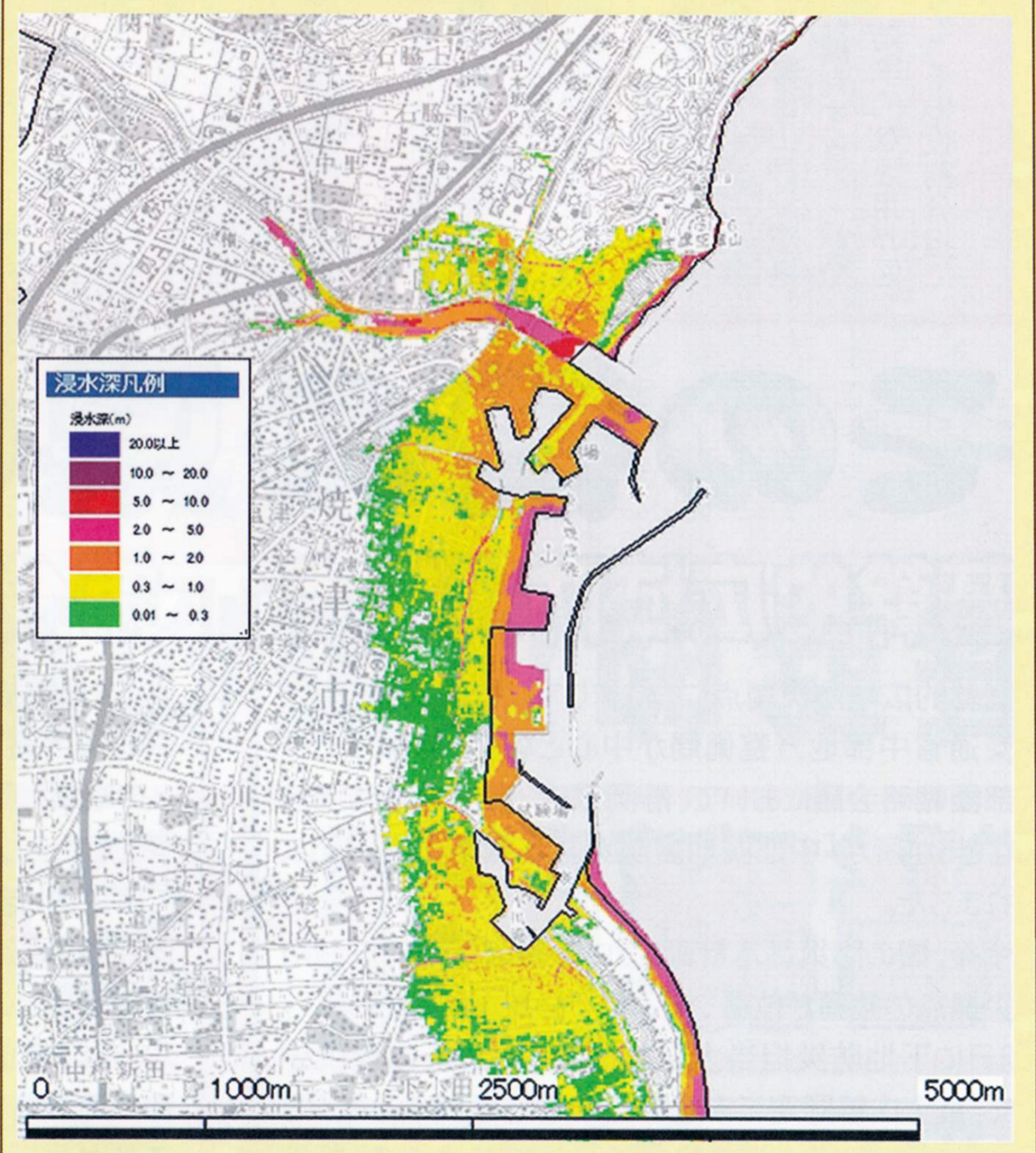
「津波高」…海平面からの津波の高さ(青字で表示)

「浸水深」…地表面から浸水面までの高さ(色で表示)

【焼津市の被害想定】

最大津波高 約11m 平均津波高 約6m

浸水区域 約11.1km² 最大震度 震度7



南海トラフの 巨大地震想定

南海トラフの巨大地震については、「南海トラフの巨大地震モデル検討会」において、対策を検討する際に想定すべき最大クラスの地震・津波の検討が進められ、平成24年8月29日に第一次報告がなされ、被害想定等が発表されました。

内閣府のホームページ「防災情報のページ」にてご覧頂けます。是非ご確認下さい。

内閣府「防災情報のページ」

http://bousai.go.jp/nankaitrough_info.html

自民党 安倍総裁と

良知あつゆき事務所

静岡県焼津市祢宜島602-2

TEL: 054-631-6123

ブログ 「らちあつゆきが感じ思ったこと」

<http://blog.rachiatsuyuki.jp/>